

都市再生整備計画

し す い えきしゅうへん
JR酒々井駅周辺地区

ち ば け ん い ん ば ぐ ん し す い ま ち
千葉県 印旛郡 酒々井町

平成28年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	千葉県	市町村名	酒々井町	地区名	JR酒々井駅周辺地区	面積	40 ha
計画期間	平成28年度	～	平成32年度	交付期間	平成28年度	～	平成32年度

目標 大目標： 中心市街地である駅周辺の利便性向上を図り、町の玄関口としての景観と防災機能向上も図り、町民や来訪者が安心して定住、回遊ができるまちづくりを目指す。 小目標①： 町の中心市街地である駅周辺の機能を改善し、町民や来街者の利便性と景観の向上を図る。 小目標②： 未利用地を利用し、若年世帯の定住促進を図る。							
目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 本町では、「第5次酒々井町総合計画」による「みんなが主役、未来へつなぐまちづくり」を基本理念に、「酒々井町都市計画マスタープラン」で「活力あふれる持続可能なコンパクトシティ」を都市計画の目標に、これまで、『高齢社会に対応した誰もが快適に暮らせる都市づくり』『酒々井の恵まれた自然・歴史・文化を活かした都市づくり』『広域的立地条件や多彩な交通ネットワークを活かした都市づくり』『安全・安心な災害に強い都市づくり』を柱に、高齢社会に備えた、道路や建築物のバリアフリー化の推進、旧成田街道沿いの街並みや本佐倉城跡等の酒々井町の風土を活かすため景観ワークショップの実施、酒々井インターチェンジや南部地区大規模商業施設の開設による新たな産業振興につながる土地利用促進、建築物の耐震化補助制度を実施し、災害に強い都市づくり等に取り組んできたところである。 一方、将来の酒々井町を担う20～30歳代の若年層が他都市に流出しており、地域コミュニティの衰退や賑わいの喪失等、都市としての魅力づくりや住宅取得に向けた支援策等、総合的な対応の一層の取組みが求められている。							
課題 ・中心市街地の核となる施設の整備とともに、酒々井の風土を活かした景観づくりにより町民がまちに対する誇りや愛着を取り戻し、来訪者が回遊して時間消費ができるよう、地域資源を活かしたまちづくりが望まれる。 ・中心市街地の一部ではバリアフリー化や歩道の整備も不十分であり、安心して歩ける歩行者空間の確保が望まれている。							
将来ビジョン（中長期） 【総合計画】 ・本地区の中心市街地ゾーンは、「みんなが主役、未来へつなぐまちづくり」を基本理念とし、子どもから高齢者まですべての人たちが快適に暮らせるクオリティの高いまち「コンパクトシティ酒々井」を目指すとともに、生活機能の整った、歩いて暮らせるまちづくりとすべきと掲げている。							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
迷惑駐車台数	台	自転車駐の迷惑駐車台数	自転車駐車場を整備し、利用者の利便性の向上を図り、迷惑駐車台数を10台以下にする。	100	平成27年度	10以下	平成30年度
定住世帯	世帯	定住世帯	定住希望者を支援し、定住世帯を90%以上アップする。	20	平成27年度	38	平成30年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針		方針に合致する主要な事業
整備方針1（酒々井町の玄関口であるJR酒々井駅の機能を高める） ・JR酒々井駅周辺の機能を改善し、利用者の利便性と景観の向上を図る。		【基幹事業】 地域生活基盤施設：JR酒々井駅前駐輪場整備事業 高質空間形成施設：上野作跨線人道橋スロープ整備事業 道路：（町道01-006号線）駅前無電柱化事業 道路：（町道02-008号線）駅前無電柱化事業
	整備方針2（若年世帯の定住人口の拡大を図る。） ・未利用地を利用し、若年世帯の定住促進を図る。	【基幹事業】 道路：（町道2B-061号線）街なか道路改築事業
その他		

交付対象事業費	585	交付限度額	330	国費率	0.564
---------	-----	-------	-----	-----	-------

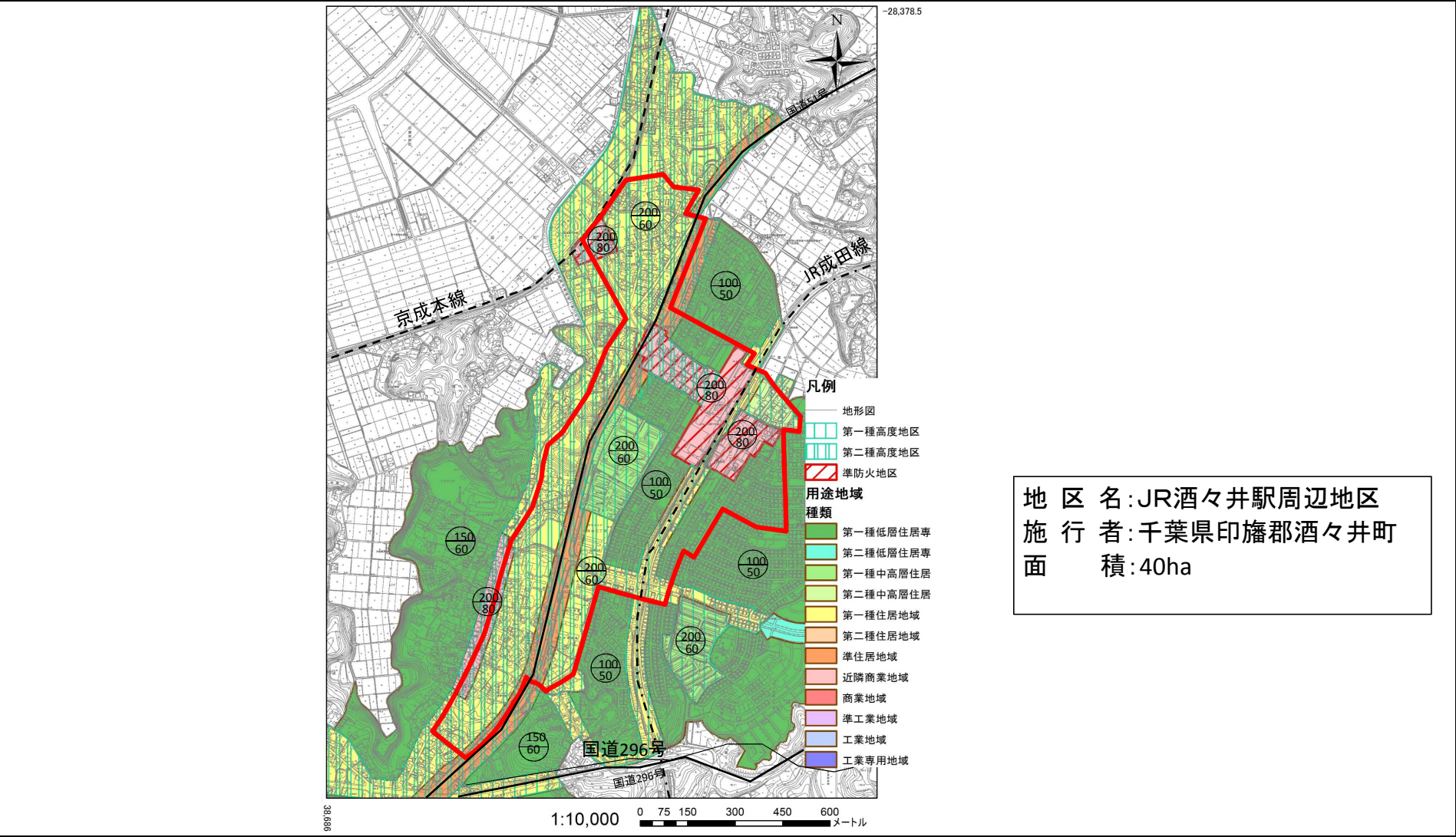
基幹事業

...A

...B

[illegible]

JR酒々井駅周辺地区(千葉県印旛郡酒々井町)	面積	40 ha	区域	酒々井町東酒々井、中央台、酒々井、中川の一部
------------------------	----	-------	----	------------------------



シ ス イ エキシュウヘンチ ク チバケンインバグンシスイ マチ
JR酒々井駅周辺地区(千葉県印旛郡酒々井町) 整備方針概要図

目標	大目標: 中心市街地である駅周辺の利便性、町の玄関口としての景観と防災機能の向上を図り、町民や来訪者が安心して定住、回遊できるまちづくりを目指す。 小目標①: 町の中心市街地である駅周辺の機能を改善し、町民や来訪者の利便性と景観の向上を図る。 小目標②: 未利用地を利用し、若年世帯の定住促進を図る。	代表的な指標	自転車の迷惑駐車台数	(台)	100台	(27年度)	→	10台以下	(30年度)
			定住世帯	(世帯)	20	(27年度)	→	38	(32年度)
				()		()	→		(年度)

